

HOKUSEI@COM

2010・AUGUST

vol.10

HOKUSEI GAKUEN UNIVERSITY
COMMUNICATION MAGAZINE SUMMER EDITION

北星学園大学 北星学園大学短期大学部



02-03

特集[先輩と話そう]
フリー‌アナウンサー
石山愛子さん
インタビュー



02-03

行動力と向上心で、
いつも新しい
ステージをめざす。
フリー‌アナウンサー
石山愛子さん



04-05

[学生たちの素顔]
演舞同好会とその仲間たち

笑って・泣いて・
踊って、
夏が来るたび
大きくなる。

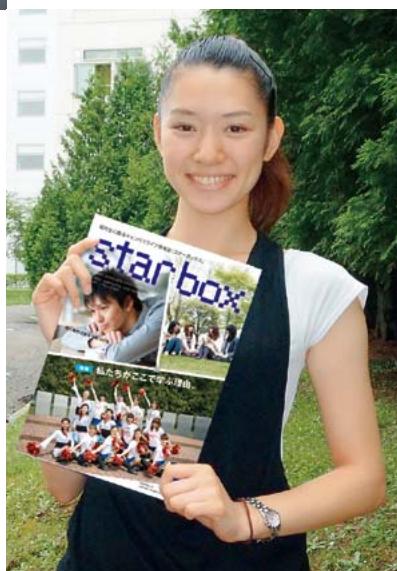
06

[まちにいいコト、できるコト。]
ペロタクシー北星号、
ただいま運行中!



07

[先生たちのその素顔]
社会福祉学部 田中 耕一郎先生
「障害とは何か」を
考える。



08

[HOKUSEI INFORMATION]
北星学園大学からのお知らせ

高校生のためのキャンパス情報誌
学生たちの素顔満載
キャンパスライフ情報誌
「star box」発刊!

☆社会福祉夏季セミナー
☆大学公開講座
☆北星オープンユニバーシティ



特集[先輩と話そう] INTERVIEW

フリーナンサー 石山愛子さんインタビュー

行動力と向上心で、いつも新しいステージをめざす。

不思議な巡り合わせでアナウンサーの道へ。

原田: 石山さんは私たちの先輩。短期大学部は現在大谷地にあります。当時はここ、北星学園女子中学高校と同じ敷地内(中央区南4条)にあったそうですね。

石山: ええ。今日、卒業以来初めて母校を訪れたのですが、懐かしいですね。

長土居: 短大時代の思い出といえば何ですか?

石山: 語学研修でアメリカ西海岸へ行ったのが一番の思い出ですね。ホームステイやクリスマスイベントなど毎日本当に楽しくて、英語がますます好きになりました。

原田: いま私が受けている授業はほぼ英語で進められるので、ちょっと大変です。

石山: 私が学生の頃もそうでした。大変だったけど、実践的な会話力を磨く上では有効だったと思います。今は英語より日本語に磨きをかけなくてはならないのですが(笑)。

原田: 短大卒業後は地元・HBCで活躍されていましたが、学生時代からアナウンサーを志していましたか?

石山: 実は全く考えていませんでした(笑)。当時も就職難の時代でしたから、自分にできる仕事なら業種を問わず、なんでもやろうと思っていたんです。そのころたまたまHBCのアナウンサー募集があり、手始めに練習のつもりで臨んだところ、あれよあれよと三次面接まで進んでしまって……最初は「自分にアナウンサーなんてできるわけがない」と思い込んでいたけれど、面接が進むうちに「できるかも」「やりたい」と気持ちが変わってきました。



地元テレビ局の人気アナウンサーから転身、現在は東京を拠点にフリーナンサーとして活躍する石山愛子さん。北星学園女子短期大学出身の憧れの先輩に、ふたりの後輩がインタビュー。気になる就職活動からテレビの裏話まで、女性同士のフランクな会話に花が咲きました。

長土居: HBC以外にも就職活動はされていたのですか?

石山: いいえ、最初に受験したHBCに内定した時点で入社を決めたので。まわりの友人も先生もびっくりしていました。私はスポーツインストラクターのアルバイトをしていたほど体を動かすのが大好きだったので、しゃべる仕事に就くとは誰も想像していなかったようです。もちろん私自身も! でも今もフリーナンサーとして仕事を続けているわけですから、人生の巡り合わせって不思議ですね。

テレビに映らないところで努力する。

原田: アナウンサーとして初めて担当された仕事は何でしたか?

石山: ラジオの天気予報でした。すごく緊張して、わずか数分のために何十回も練習したのを覚えています。のちにその収録テープを聴く機会があったのですが、緊張のあまり苦しそうにしゃべっていましたね(笑)。今では懐かしい思い出です。

長土居: 新人時代の思い出はありますか?

石山: 大変なことがありすぎて…(笑) 発声練習や早口言葉などの訓練を毎日やりましたが、なかなかうまくできなくて、新人時代は失敗したり悔しい思いをしたり繰り返し。やっと余裕を持って話せるようになったのは3年目からでしょうか。アットホームな社風だったので、先輩たちにもずいぶん助けられましたね。早朝の番組を担当していたので、当時は深夜2時半起床、3時半出勤。休日も番組内容の下調べや練習をするので休めないし、仕事は楽しかったけど体はつらかったです。でも視聴者の方からの「いつも観ています」という声が励みになりました。





↑北星学園創立百周年記念館前にて(当時は北星学園女子短期大学もここにありました)



PROFILE

いし やま あい こ
石山 愛子

1975年 札幌市生まれ
1994年 北星学園女子高等学校卒業
1996年 北星学園女子短期大学英文学科卒業
北海道放送(HBC)入社
2001年 北海道放送(HBC)を退社
現在フリーランスとして東京を拠点に活動中

【おもな担当番組】

- はなまるマーケット(TBS)
- 競馬beat(関西テレビ) など



文学部 心理・応用コミュニケーション学科
3年(短期大学部 英文学科卒)
ながとといかおり
長土居 香織さん
「自分から行動しないと始まらない」という石山さんのメッセージにとても感銘を受けました。これから始まる就職活動にも活かしていきたいと思います。



短期大学部 英文学科
1年
はらだ さと
原田 紗斗さん
私もアナウンサー志望なので、会いできてとてもうれしかったです。石山さんのチャレンジ精神を見習って、私も夢に向かって頑張ります。

長土居: アナウンサーは華やかなイメージがありますが…。

石山: アナウンサーの仕事は、テレビに映っているときだけではないんです。自分で現場を取材して、原稿を書いて、読む練習をして、さらに新人はオフィス内の雑務もして……でもそういう苦労はテレビ画面には出さない。決して華やかではなく、地道な作業を積み重ねる世界です。それだけに努力した分だけ成果が現れるし、やりがいがあります。

すべては自分次第。リスクを恐れず行動する。

長土居: HBCの第一線で活躍されている石山さんが退社・フリーの道を選んだのはなぜですか?



石山: 退社を決意したのは入社5年目。20代前半は局アナとして全力疾走してきたけれど、20代後半からは新しい世界にチャレンジして、さらに自分を向上させたいと思ったんです。人にも仕事にも恵まれた会社を辞めるのは寂しかったのですが、やらないで後悔するより失敗してもやった方がいい、と自らを奮い立たせて上京しました。

原田: フリーになって仕事や生活などに変化はありましたか?

石山: ライフスタイルは変わりましたね。スケジュールを自分で管理するのは大変ですが、まとまった休みを取って旅行もできるようになりました。その代わり仕事の保証はないし、何があっても会社は助けてくれません。上京してまもなく風邪で2週間寝込み、まったく仕事ができなかったときは焦りました。でも、そういうリスクもむしろ自分にとってはメリットだと思っています。やった分だけ返ってくる、やるかやらないかは自分次第。それがかえって励みになります。女子高・短大時代に培った行動力と向上心が、私の大きな力になっていると思います。

長土居: 石山さんのお話しさはとても参考になります。私たちはこれから就職活動を考えているのですが、先輩としてアドバイスをいただけますか。

石山: 就職が厳しい時代だけど、チャンスは自分でつくるもの。思い通りの仕事ではなくても、その中で自分ができることを続けていれば、やりたいことがきっと見つかるはず。これから長い人生、学生のみなさんにはいろんなことにチャレンジしてほしいですね。

原田: 最後に、北海道のみなさんへメッセージをお願いします。



石山: 私は北海道が大好き。東京で暮らし始めて改めて北海道の魅力に気づき、道産子の自分を誇りに思っています。今の私があるのは北海道で生まれ育ったおかげです。この感謝の思いを、北海道のために私ができることのなかでいつか還元できれば、と思っています。

長土居・原田: 今日はありがとうございました!





〈演舞同好会とその仲間たち〉

笑って・泣いて・
踊って、
夏が来るたび
大きくなる。



練習風景(井原水産ほし工場駐車場にて)



東札幌会場での演舞



ソーラナイトでの演舞

130人以上の心がひとつになる喜び。

「井原水産&北星学園」は、井原水産と本学のサークル「演舞同好会」がタッグを組んだYOSAKOIソーランチーム。全員が本学学生で構成されており、スタッフとして参加する学生・OB・OGを合わせると、毎年150人以上のメンバーが参加しています。代表を務める小野早織さん(経済学部経済法学科3年)はYOSAKOIソーラン祭りの魅力を「仲間と感動を共有できる一体感」と語ります。

「現在所属現役メンバーは130人あまり。これだけの大人数になると、演技も気

持ちもひとつにまとめるのはたやすいことではありません。でも、ときにはぶつかりながら練習を重ね、本番を踊りきったとき、全員の心がひとつになった手応えを感じる瞬間が訪れる。それが醍醐味ですね」

チームが始動するのは毎年8月。10月までに作品テーマを決定し、翌年1月下旬から振付けを創作。在学生は4月までに振付けを覚えて新入生に伝授し、2ヵ月の猛練習の末に6月の本番を迎える——ほぼ1年かけてYOSAKOIソーラン祭りに取り組む演舞同好会。彼らにとって演舞はまさに青春そのものです。



Documentary of the last 2 days

YOSAKOIソーラン祭り ★ 演舞同好会のラスト2日間 [2010.6.9-6.13]

〈井原水産&北星学園〉2010年のテーマ:春海祭

ニシン漁をモチーフに春の初漁を祝う祭りを表現。
留萌地方の「沖上げ音頭」に初挑戦し、ファイナル審査進出をねらいます。

6/12 [土]

8:00

北星学園大学体育館サブアリーナ集合。

メイクと準備体操を済ませて、グラウンドでパレードを練習。



11:00～

澄川会場 ➡ 一番街丸井今井前会場にて演舞。快晴で気温も上昇、踊り子たちは汗だく。

15:30

大通パレード会場にて一次審査スタート。
目標はファイナル進出。大賞や準大賞も夢ではないファイナルは、演舞同好会にとって大きなステップ。練習の成果をすべて出し尽くし、全員で踊りきる達成感に感極まって、終わった瞬間泣き出すメンバーも。



パレードは沿道の観客との距離が近く、踊り子の気迫と観客の興奮がひとつになる実感があります。観客の手拍子と声援に手応えを感じました!

19:30 サッポロガーデンパーク会場にて演舞。



21:30 本日の演舞終了。おつかれさまでした!

6/13 [日]

10:00～

イオン札幌平岡ショッピングセンター

➡ 大通南北パレード会場 ➡ 本郷通西会場にて演舞。



13:00

代表のケータイに審査結果通知。
結果は・・・昨年と同じセミファイナル進出。
あと一歩及ばず、ファイナル出場の夢は今年も果たせなかつた。ここまで道のりを思い出して、みんな涙・涙。

自信があったのに・・・残念。でも「セミファイナルでNo.1をめざそう」「お祭りなんだから楽しんで踊ろう」という声があがり、最後はみんな笑顔に。

16:30 東札幌会場にて演舞。

17:50 大通公園西8丁目会場にて
セミファイナル。

結果は・・・85点で総合3位。
携帯投票では2位。



1位の90点に一步及ばなかったものの、去年敗れた某チームと同点だったのは大きな進歩。来年こそはファイナル進出! 思いも新たに、演舞同好会の夏、完全燃焼!!

〈YOSAKOIソーラン祭りに参加して〉



大好きな仲間がいる。
それが踊りの原動力。

経済学部 経済法学科 3年

おの さおり

小野 早織さん



YOSAKOI初体験だった1年生のときは先輩についていくのが精いっぱい。2年生になんでもまだ迷いや不安があったけれど、3年生で代表を任せられ、チームへの思い入れがとても強くなりました。上手下手よりも大切なのは、作品そしてメンバーを愛する気持ち。踊ることも好きだけど、何よりもこのチームが好きだから、活動を続けてこれたんだと思います。ファイナル進出の目標はかなわなかったけれど、結果以上に大きな“仲間の絆”を得ることができました。



大きな家族みたいな、
あったかいチーム
でした。

短期大学部 英文学科 2年

いとう さか

伊藤 明や伽さん



小樽から通学しながら、勉強・バイト・YOSAKOIに取り組んだ約1年半。忙しかったけれど、好きなことができる喜びのほうが大きかったです。私たちのチームはみんな仲が良くて、大きな家族みたい。スポンサーである井原水産の方々にもさまざまな形で支えていただき、その心に応えるためにも頑張ろうと思って全力で踊りきりました。卒業後は大学編入を希望していますが、北星学園大学に進学できた場合は、またこのチームでYOSAKOIに出演したいと思っています。



カナダに帰国後も
YOSAKOIを
踊りたい!

交換留学生(カナダ・セントトマス大学)

マリリン・コートさん

Marylyn Cote



来日前はYOSAKOIについてよく知りませんでしたが、留学してYOSAKOIに参加する学生が一生懸命取り組んでいる姿に驚きました。YOSAKOIの衣装を着ていると知らない人から話しかけられたり、市内のあちこちを踊って回るのも面白かったです。YOSAKOIに参加したこと、人前でパフォーマンスすることに自信がつきました。帰国後は母校の日本人留学生のYOSAKOIグループに参加して、南中ソーラン(稚内南中学校発祥のロック調ソーラン節)を踊りたいと思います。



バックステージの
魅力を伝えたい。

社会福祉学部 福祉臨床学科 3年

きら まい

菊地 舞さん



YOSAKOIソーラン祭りのバックステージに興味があり、学生実行委員会に加入。中学・高校での放送局の経験を活かして、ファイナルの司会を担当させていただきました。テレビには映らない踊り子の熱意が垣間見られるのがバックステージの魅力。そんな雰囲気を伝えたくて、台本づくりにも工夫を凝らしました。北星チームの練習も取材していましたが、仲間を大切にしているチームだなと思いました。立場は違っても同じYOSAKOI仲間。同じ舞台に関われたことを本当にうれしく思います。

まちにいいコト、できるコト。

ベロタクシー北星号、ただいま運行中!

まるで未来カーみたいな不思議な形の乗り物、
みなさんも街を見たことがあるのでは?
エコな交通システムとして近ごろ話題のベロタクシー。
本学も協賛という形でその活動を応援しています。



CO₂削減による低炭素社会の実現が求められる時代。そのニーズに応える新しい交通手段として近年注目を集めているのが「ベロタクシー」です。ベロタクシーは1997年にドイツで誕生した自転車タクシー。排ガスを出さない環境にやさしい乗り物として世界各都市に広がり、札幌も2008年から運行がスタートしました。北星学園大学では、ベロタクシーの構想段階から事業支援の意志を表明。現在は広告パートナーとして「北星号」を運行しています。

ベロタクシー事業を展開するNPO法人「エコ・モビリティ サッポロ」代表・栗田敬子さんは「エコロジーって大切だけどちょっと面倒、と思う人も多いはず。ベロタクシーは自動車から乗り換えるだけでCO₂が減らせる、手軽なエコアクション

です。おまけに近距離の移動が快適で見た目も楽しい。北星号はカラフルな星がついたデザインが大人気で、『これに乗りたい』と指定てくるお客様もいるんですよ」と語ります。「ベロタクシーのメリットは環境面以外にも、高齢者や障がい者の通院や買い物の送迎による福祉貢献、観光活性化、ドライバーの雇用機会創出など、たくさんあります。今後は都心部だけでなく市内各地に拠点を拡大し、市民の足として利用していただきたいですね」。



NPO法人「エコ・モビリティ サッポロ」
代表 栗田 敬子さん

北星号が大谷地駅の周辺を走る日も、そう遠くないかもしれません。



札幌時計台前を走行中の「北星号」

乗車料金は一人につき初乗り300円で500mまで。
以降100mごとに50円加算(子供は半額)。
10:00～日没まで、札幌駅・大通付近を中心に運行(10月末まで)。



車内は天井が高く広々、サスペンション入りで快適な乗り心地。
北星号に乗車すると本学オリジナルポストカードをプレゼント。

本学学生のベロドライバーも活躍中!

自転車好きが高じて今春からベロドライバーになった斎藤竜也さん(社会福祉学部福祉臨床学科3年)。1日15～20組ほどを乗せて走っています。「最初は3時間くらいでバテてしまうほどキツかったけど、今は夜まで走っても平気。自動車と違って風を感じるベロタクシーはとても魅力的な乗り物です。お客様との会話もベロドライバーの大切な仕事。高齢のお客さんに孫のように話しかけられたり、『頑張って漕いでくれたお礼に』とお釣りを受け取らない方もいて、感謝とともに頑張ろうという気持ちが湧いてきます」と斎藤さん。真っ黒に日焼けした顔はベロドライバーの勲章です。

社会福祉学部 福祉臨床学科
さいとう なつや
3年 斎藤 竜也さん



ベロタクシーに関するお問合せ先

特定非営利活動法人 エコ・モビリティ サッポロ
Tel.011-242-2555

Featured Faculty Member

先生たちのその素顔

●社会福祉学部 田中 耕一郎先生●

「障害とは何か」を考える。



PROFILE

たなか こう いちろう

田中 耕一郎

1986年 花園大学文学部社会福祉学科卒業
1986年 神奈川県立愛名やまゆり園 生活指導員
1989年 愛知教育大学大学院障害児教育学専攻
修士課程入学・1991年修了(教育学修士)
1992年 専門学校 日本福祉学院 専任講師
1997年 北海道女子大学人間福祉学部(現北翔
大学)専任講師~助教授
1999年 大阪府立大学大学院社会福祉学研究
科博士後期課程入学・2002年修了(社
会福祉学博士)
2003年 北星学園大学 社会福祉学部 福祉臨
床学科 助教授~教授
現在、DPI(障害者インターナショナル)北海道ブロ
ック会議理事・札幌市障害者福祉施策推進協議
会委員長などを務める。

障害者の生きづらさの原因は社会にある。

私が専門とする障害学は、日本ではまだ新しい学問です。従来の障害者福祉は、障害を持つ人の生きづらさ(disability)の原因を障害そのものと考え、治療やリハビリで個々にアプローチする「個人モデル」が中心でした。一方、障害学では、障害者に生きづらさをもたらす社会を疑問視し、障害者が当たり前に市民生活を送るための社会的支援を考える「社会モデル」です。バリアフリーやユニバーサルデザインなどもその一例ですが、近年は自治体による障害者の社会参加推進策も進んでいます。たとえば重度の障害をもつ人が地域社会で生きるために、周囲がさまざまな形で生活支援をする。そこにサポートネットワークが形づくられ、新たなコミュニケーションが生まれる。それが機となって次の支援につながる——言い換えれば、障害者の存在が、さまざまな新しい関係を地域に創っていく、これも障害者の社会参加であり、大きな価値があると思います。

北海道の障害者福祉の可能性。

障害学の道に進むきっかけは、障害者施設で生活指導員をした経験でした。個人モデル的な枠組みで障害者と接するジレンマに悩むなか、障害者運動に出会い「今までしてきたことは真の障害者福祉なのだろうか」と自分自身に問いかけるようになりました。そして日本とイギリスの障害者運動を比較研究するうちに、国や文化が違っても障害者が健常者社会で感じる生きづらさは同じだと気づき、社会モデルの視点に立った障害者福祉を追究するようになりました。

北海道に来て18年目ですが、北海道には障害者支援の先駆的な実践事例が多く、障害者の社会運動も活発です。同じ町に暮らす人々にとって障害者福祉が特別なことではなく、人ととの多様なコミュニケーションのひとつになれば、地域社会は変わってゆくでしょう。新しい試みを自然に受け入れる大らかな気質を持つ北海道には、その可能性が大きいにあると思います。

『田中先生の主な著書』

- 『現代社会福祉概論』
(共著／中央法規出版、2006)
- 『障害者運動と価値形成—日英の比較から』
(単著／現代書館、2005)
- 『AERA MOOK 福祉士になる』
(共著／朝日新聞社、2005)



北海道新聞 2010年5月14日掲載
4月下旬、札幌市役所で開催された障害者による政
策提言サポートへの委嘱状交付式の模様。「障害者
の公的会議への参加が進む昨今、障害者が論議に
参加しやすいよう十分な支援が必要」と田中先生は
語ります。

SEMINAR

ニーズに応える社会福祉の実践に向けて。

第43回 北星学園大学社会福祉夏季セミナー

現代のわが国における 生活保障のあり方とその課題

日本社会の変容を踏まえたうえで、社会保障・社会福祉および雇用政策までを視野に入れた「生活保障」を軸に、今、われわれがおかれている状況を整理し、その課題の抽出を試みるセミナーです。

- 日 程／9月3日(金) 9:50～18:30
- 会 場／北星学園大学内教室
- 定 員／140名(定員になり次第締め切ります)
- 参加対象者／社会福祉に関心をお持ちの方
- 受 講 料／2,000円(本学学生 1,000円)
- 申込締切／8月20日(金)必着(申込書及び受講料入金)

本学のホームページでご案内中です。



※写真は昨年行われたセミナーの様子です。

OPEN CLASSES

暴力の連鎖を断ち切るために。

第36回 北星学園大学公開講座

市民のための平和学 ～草の根から創る平和～

人間関係のいさかいから戦争やテロまで、私たちの世界には、大小さまざまな暴力や紛争が存在しています。身の回りの日常からグローバルな国際社会へ、平和を広げるための知恵と力について、さまざまなお観点から探求します。

- 講 師／本学専任教員(萱野智篤、片岡徹、岩本一郎、長谷川典子)
本学非常勤講師(片野淳彦、越田清和)
- 日 程／9月24日(金)～10月29日(金)18:20～19:50(全6回・毎週金曜日)
- 会 場／北星学園大学内教室
- 定 員／200名(定員になり次第締め切ります)
- 受 講 料／一般2,000円(全期間セットの受講料となっております)
- 申込締切／9月3日(金)必着(申込書および受講料入金)

本学のホームページでご案内中です。



※写真は昨年行われた公開講座の様子です。

各セミナー、講座、オープンユニバーシティ
お申込み・お問合せ先

北星学園大学 エクステンション課(C館1階) Tel.011-891-2731(代表) Fax.011-896-8311(直通)

OPEN UNIVERSITY

新たな世界が広がる、社会に開かれたオープン講座。

北星オープンユニバーシティ

語学や資格取得の生涯学習を通じ、 人材育成、交流の場を提供

社会人、卒業生に在学生も交えた生涯学習の機会として多彩な講座を開講しています。後期は10月15日(金)より、新規講座を含め約40講座の開講を予定していますので、皆さんの受講をお待ちしています。



※写真は今年行われた地域連携講座の様子です。

- 申込期間／9月2日(木)～9月24日(金)
- 募集講座／「語学」「資格取得対策」「文化教養」「ビジネス・社会連携」など
- 申込方法／募集講座の詳細は8月下旬にホームページでご案内しますので、インターネットでお申し込みください。
<http://www.open.hokusei.ac.jp>
ホームページでご確認いただけない場合は、案内書をお電話でご請求ください。無料で送付いたします。

TOPICS

リアルな北星ライフが見えてくる。

高校生のためのキャンパス情報誌

学生たちの素顔満載

キャンパスライフ情報誌「star box」発刊!

本学では今夏も、大学・短大への進学を考えている高校生のためのキャンパスライフ情報誌「star box」を発刊しました。様々な学生がいる、色々な夢がある、リアルな北星ライフがこの一冊に詰まっています。「star box」は、ただいま「紀伊國屋書店札幌本店」「くすみ書房」にて無料配布中です。ぜひお手にとってご覧ください。

●お問合せ先／北星学園大学 企画広報課 Tel.011-891-2731(代表)



「star box」を手に持つ巻頭特集掲載の佐藤美友さん(チアダンス部部長)